

第17回 中山間地域振興特別委員会記録

日時：令和2年11月26日(木)

09時58分～11時54分

場所：第4委員会室

【出席者】 田畑委員長 布施副委員長
川上委員 柳楽委員 野藤委員 上野委員 ~~飛野委員~~ 永見委員

【議長団】

【委員外議員】

【執行部】

【事務局】 古森局長 大下書記

議 題

1 テーマ4「中山間地における安全・安心対策」について（意見交換）

2 その他

【参考】

テーマ4「中山間地における安全・安心対策」について

- (1) 災害時の相互扶助機能の低下、防犯・防災への不安
- (2) 高齢者世帯・独居者の見守り・安否確認体制
- (3) 避難場所の確保
- (4) 落石防止、カーブミラー、河川や砂防ダムの土砂等の撤去

3 その他

○次回開催 12月 22日(火) 10時 分 第4委員会室

【議事の経過】

(開 議 09 時 58 分)

田畑委員長

ただいまより、令和2年11月26日の委員会を開会する。本日は飛野委員から欠席の連絡を受けている。永見委員が少し遅れる。今6名の出席で定足数に達しているので委員会を開会したい。

1. テーマ4「中山間地における安全・安心対策」について（意見交換）

田畑委員長

前回の委員会において4つ目のテーマである項目について26件の資料要望に対して、執行部からの説明を受けたところである。本日は課題と課題に対する活路を見出せる対策について、事前に提出していただいているので、それを基にして意見交換をしたい。

なお本日の会議は2時間程度を目安としている。次回も意見交換の回としたいと思っている。テーマごとに委員から発言いただいた後に自由討議としたい。

まず(1)の一覧について発表いただきたい。一覧表のとおり川上委員からお願いする。

川上委員

どちらにせよ課題としては地域見守り組織の強化が必要だろう。そのためには現在あちこちで行われている「ながら見守り」を全市に求めて、機会を設けて進む。今回コミュニティセンター化に進んでいるので、この機会を活用し全地域の組織化を図っていただきたい。同時に、現在道路パトロールをしているが、それを安全安心パトロールとして再構築することを考えていただければうれしい。同時に、ドライブレコーダーを全車に装備して記録を残す。そうすると不明者や不審者の存在が記録できるので考えていただければと思う。

柳楽委員

災害時の相互扶助機能の低下については、やはり見守りなどの活動を強化する必要がある。ただ要支援者名簿等に関しては個人情報との関係でなかなか広く提供できないとのことなので、町内会といった小さな単位で、三隅でやっておられるような取り組みを進めることは大事だと思う。作ったものは地域の拠点に置いておくことは大事だと思っている。

特殊詐欺などの防犯については、防災行政無線で。未遂事案があったときは防災防犯メールに入ってくるが、実際に事件が起こった、また未遂があったときには防災行政無線で呼びかけることも有効なのではないか。ほかに、マイタイムラインや地震に備えて各家庭で家具が固定できる対策を行ったり、備蓄品を備えることを周知する必要があるのではないか。

野藤委員

災害時の相互扶助機能の低下についてはなかなか難しいと思っている。もう1つの防災防犯についての不安の軽減について考えたとき、情報がないからであろうと捉えた。独居や高齢者のみの世帯があるとすれば、行政からの情報がきちんと届くことが必要なのではないか。対策としてインフラ整備による通信速度の向上、新たな個別機器の選定・配置

と書いたが、G I G Aスクール構想などで中山間地含め全市に光ファイバーの大容量通信ができるインフラが整うと仮定して、さまざまな情報が提供できる、使いやすい機器を優先的に配置していくことが、情報不足を解消するのではないか。災害時に何が足りない、何が必要といったこともそれで解消するのではないか。

上野委員

自主防災組織が未設置の地域があるため、それを全市に設置できるようにすることと、例えば高齢者ばかりで自主防災組織もままならない地域も連携や支援ができるように、まちづくりセンターが頭になって組織づくりができればよい。

田畑委員長

飛野委員の項目については。

布施副委員長

私が飛野委員から聞いている。ここに書いてあるとおり、自主防災組織がまだできていないところがあるので、それを作ることで自分たちのまちや集落は自分たちで守ることを意識づけるために、組織ができているところを参考にして、設立の手助けを市としてしっかり力を入れて推進したい。

2番目の災害時の消防団員の立ち上げだが、消防団員に若手がなかなか入らず今の人員を守るのが精一杯とのことだが、地域の消防団が非常に初期消火に寄与されるので、消防団に若い人を入れる取り組みを市としてやっていただきたい。職場の消防団というのがあったが、目に見えないのでその推進も併せてしていただきたい、とのことだった。

田畑委員長

では次、布施副委員長。

布施副委員長

自助・共助・公助からまず考えている。浜田市の災害に対する考え方は、言葉では言われるが、まず災害時における大きな目標を掲げていただきたいということで、最初に書いている、逃げ遅れゼロを掲げる。全ての人が逃げ遅れないように。そのためには、新聞に発表があったが、マイタイムラインを義務化か何かするよう各市町村に作成するよう、国が掲げるとのことだった。マイタイムラインがなぜ必要かは、東日本大震災や熊本の豪雨災害、広島のとろろ災害、危なくなって逃げようとしたため間に合わず、かなり多くの死者が出ている。その前に、こういう災害が来たときにはここにこのように逃げるのだと、自分で作成することでチェック機能が果たせる。そして自分だけがわかるのではなく、共助の場合で、避難が遅れているのか自宅待機なのかがわかるように、周りの人に伝えておくことも大事だろう。公助の場合は、高齢者独居の方、障がい者、要支援者名簿があるが、この人が避難所に来てなかったら誰がどのように確認するのか。それら自助・共助・公助の関係を、マイタイムラインによって相互扶助できるよう取り組んでいくことが大事である。

家に避難する場合、家での事故も多い。家具の転倒や骨折、階段からの転落などの事例もあるので、家での安全確認ができるようなチェック項目を出して、転倒防止家具の購入に補助ができるような制度を設けて

いただきたい。

災害時に避難が長期化する場合があるので、避難所のケアプランをつけるべきである。また、避難所まで距離がある人は、普段から避難所へ行くルートを歩く、町内でも訓練のために避難所まで行ってみる。そういう広がりを持っていたらよいのでは。

最後は、自主防災組織などいろいろなものを作り、年1、2回は必修項目としてどの町内でも、自主防災組織ができていなくても、避難訓練や防災訓練をすべきである。

田畑委員長

永見委員はここに書いてあるように、自主防災組織の設立と、防犯・防災の危険個所の洗い出しとなっている。

次に私も出しているが、市内全域に自主防災組織を設立すると、確実なものになれば今まで委員が言われたことがほとんど網羅できている。特に避難場所、避難経路の確認については、地域によって災害状況も違うだろうし、自主防災組織の中で避難場所を新たに決める、避難経路も地域の人が決めるやり方にしていけないと。浜田市には300超の避難場所があるが、そのうち200か所くらいは土砂崩れの危険地域にあるとか、水害でつかるといえるような地域にあることから、自分たちの逃げ場は自分たちで決める。逃げる経路も自分たちで決める。そうするとこれが確実なものになれば、今までのいろいろなことが解消できる。そのためには最低でも年2回は、自主防災会における地域の防災訓練を実施していただくことが、大変重要だと思っている。

(1)は自主防災組織のレベルにもよるが、もっと掘り下げたものになればそれで十分対応できていると思っている。これで(1)を終わる。

次に(2)について。柳楽委員から。

柳楽委員

日中は若い方たちは仕事で出られて、子どもたちも学校に行っていて、地域に残っておられるのは高齢者が多い。地域を回る頻度の高い事業者の緩やかな見守り体制を、今もそういった取り組みをされているが、いろいろな事業者に協力していただける体制をとっていくことがよいのではと思う。(1)の1と同様と下に書かせてもらったが、(1)と(2)をまとめたらどうかと。

田畑委員長

それは後で。

柳楽委員

はい。

野藤委員

ボランティアでは限界がある部分もあるので、例えばアルソックなどをお願いして自己負担いくらでというシステムをつくってもよいのかとも思った。それに対して行政は補助を出していけば、離れた親戚が気兼ねなく依頼できる。地域をお願いするといっても、それぞれの家庭があるので。そういうことも1つの手段としてあればよい。

上野委員

これもまちづくりセンターが頭になって自主防災組織を率いて、見守りが必要な独居世帯を把握して、避難訓練などの計画書作成、見守りマップなどをつくったらよい。それを全市に広げていただきたい。

布施副委員長

飛野委員の意見は書いてあるとおりであるが、連絡体制網を確立する。親戚などに連絡しなければならぬのにつながらないことがあるが、個人情報重視しながら連絡体制をしっかりと確立する。誰がやるかだが、それを見守り体制の強化につなげていただきたい。

田畑委員長

副委員長の見解を。

布施副委員長

私は、緊急通報装置「早助（さすけ）」、負担はあるが緊急時の情報発信方法として設置を推奨していただきたい。新聞にも載っていたが、郵便局とは今包括的な協定をしているが、新聞販売所と浜田市が協定を結んだと報道があった。包括協定ができる業者を広げていただきたい。

もう1つは都会であったのだが、災害時における安否確認カード、無事カードというのを。神戸市三田は2千世帯あるが、無事カードというものを独居老人に限らず、訓練もしながら、自分たちは無事だというのを玄関や門扉に掲げて、連絡員が見守りに行く。情報メモに現状を一言書いているのでそれを確認する。非常に効果が発揮されている。

もう1つ、これもどこかの市だったと思うが、行政がタオルをつくって配り、それを玄関に結んでいる家は無事なのだと判断する。そういう取り組みをしている所もあった。参考にしようかと思う。

永見委員の項目については、書いてあるとおりかと。地域まちづくり委員会の町内会別、高齢者独居の把握。そのためには町内会の中で安否確認体制を設ける。これは先ほど飛野委員の意見の中にあっただような、連絡網の整備か。そういったものが必要なのではないかという感じである。

田畑委員長

私は自主防災組織で全て対応すべきだと思っている。今、自主防災組織の中には個人情報を公開してくれと、行動レベルをつくって、避難準備が自分できるとか、レベル5は自分でやれず車椅子や担架やおんぶなどが必要であるといったことを全部公開していただき、自主防災会班長が保管している。これができると携帯電話番号を公開してもらっているので、全て携帯でやりとりできるようになっている。情報公開しない人も一部おられるが、その人は置いておくということでうちの地元では進んでいる。集金常会も復活させようと、毎月1回常会をやりながら、独居老人の安否確認を行うようにしている。いろいろ意見はあろうかと思うが、安否確認体制を設けるようなことは私のところは普段からやっている。全体から見るとそういった組織をつくっていかないとなかなか難しいのではないかと思う。自主防災組織が本当にきちんとできれば、この問題については大丈夫ではないかと思う。これもだいたい15軒前後の30人くらいを1つの班にしてやっている。大きな町内と違って小さくしているので、十分対応できている。

川上委員

書いてあるとおりで、結局は皆と一緒に。地域見守り組織の強化が必要なのは事実なので、あとはどうやってその機会を設けるかだけの違いである。先ほど委員長が言われたものも必要だろうし、よいだろう。

あとは見守りのために道路パトロールの機会を活用する必要もあるのではないかと考えていた。

柳楽委員

言い忘れていたことがある。津和野町がICTを活用した見守りサービスをされている。これは見守りだけでなく買い物支援サービスもなのだが、たいていの人には毎日テレビをつける。テレビの電源を入れたかどうか分かるシステムになっていて、それで見守りをする事業をしておられる。そういったことの活用というのもあるのかと。

田畑委員長

一度調べてみる必要がある。

柳楽委員

前回視察の話も出ていたが、もしできるなら買い物支援も併せて、できればよい。

田畑委員長

(2)については以上で終わる。

次に(3)について、野藤委員から。

野藤委員

現在は割と範囲が広いのではないかと考えている。単位はなかなか言えないが、小さい範囲の一時避難が重要だろう。一晩や1日くらいの避難で、遠くというのは難しいので地域内で話をして危険度判定をして、こういうときはどこどこへ集まろうということをしたらどうか。行政が場所を決めるのではなく、災害別のマイタイムライン作成などあるが、10軒くらいの範囲で集まって一時避難をされたらどうかと思った。

上野委員

避難場所まで遠かったり、中山間地では田んぼを広げるためにできるだけ山に沿って家をつくっているので、崖崩れの危険が大変多い。私の地域も毎月集金常会を開いており、大雨が降りそうな時期には年寄りに声かけをしておられる。皆マップをもらっているので危険箇所は知っているが、まちづくりセンターが中心となって把握をしっかりとっていくことが必要である。

布施副委員長

飛野委員の意見は、持病薬の対応と言われているのだが、避難した後の持病薬の問題だろう。避難場所の確保よりは避難した後のこと。それも大事だとして載せておられる。

田畑委員長

続いて、副委員長自身の意見を。

布施副委員長

私は皆と一緒に考え方として、今まで日本の避難所は命を守ることが第一条件だったが、東日本でインフルエンザが流行し、今はコロナが流行している。感染症との複合災害に備えるには今のままでよいのか、再度棚卸しして、数や場所を洗い直すことが大事ではないかと言わせていただく。

避難所へ行くと、都会では、この避難所は津波の避難所なのか、土砂災害なのか、災害によって避難適用・不適用のマークが表示されている。浜田の場合はあまりなかった。避難所にもマークを入れるべきである。あと、これも随分前から言っているが、道路や電柱に避難所へのルート表示を出す。これが一番大事ではないかと思う。

永見委員

第一避難所と最終避難所と明記させてもらっている。災害の状況によっては最終避難所まで行けない状況があるので、まずどこに避難するの

かを決めて周知して、状況に応じて最終避難所への移動を行う。第一、第二、最終避難所を皆に周知するべきである。それを災害時の避難に利用するべきと考えた。

田畑委員長

これも自主防災組織が、地域に住む皆の総意のもとできちんとできていれば、自分たちで決めた避難場所、市が決めた避難場所、いろいろあるだろうが、状況による判断も全て地域で決めていかないと行政を当てにしていたら命取りになるのではと思っている。そういった事例もあるので。きちんとした自主防災組織ができていればこういった問題はないと感じている。

川上委員

一時避難所の選定と確保が必要だというのは事実なので、これをどうするかとなると、集落に集いの場を設けるのが第一だろうと考える。集える場を設けるなら若干の茶菓子に若干の補助を出してもよいのでは。そうすることでより一層活動できるのではないかと考える。

あと、安全安心のパトロールを設けて、周辺状況を確認して、定期的なチェックも行う方法も必要だろうと考える。

柳楽委員

指定されている避難所が浸水想定区域である例が多くあるので、避難場所の見直しをするべきだと思うし、あとはそれぞれ、自宅内でもどの場所が安全なのか、自宅周辺で安全に避難できる場所をそれぞれが確保しておくことを皆に訴えることが必要かと思う。

田畑委員長

では(3)を終了する。続いて(4)について、上野委員から。

上野委員

自主防災組織を通じてということ、各地域でいろいろなことが起きたらすぐ連絡すること、近ごろはイノシシなどによって一晩で石が転げ落ちる状況になることがあるので、パトロールの方に頼っても限界がある。地域の人が何かあったらすぐセンターや市に連絡する体制をつくる必要があるかと思う。

それと、高齢者にとってカーブミラーに頼るのは危険と書いたが、僕は何度もそれを体験した。かえってカーブミラーがないほうがよい。

また、高齢者ばかりになって河川の草刈りが大変で、堆積した土砂を取ってもらってもそのままならず、すぐ葎が生えて堤防を上がって畑のほうへ生えてくる状況が多く見受けられる。市として県へ強く要望して、少しでも取ってほしい。

田畑委員長

続いて飛野委員の意見を。

布施副委員長

書いてあるとおりだと思っている。

田畑委員長

では副委員長自身の意見を。

布施副委員長

カーブミラーの設置については各要望以上に実施計画ができていたことよりののだが、カーブミラーが役に立っていない例がある。道路パトロールでチェックして直すと言われたが、私の町内でも1か所そのままになっている。台帳が必ずあるはずなのでそれをチェックして、必要に応じて費用を出して直していただきたい。お願いする。

もう1つ、砂防ダムや治山ダムは国県事業だが、実施計画を読むと点

検はある程度行われても実施が年1、2か所程度である。土砂を取る基準はないと言われたが、要望としては各集落からあると思うので、実施していくには今年度から5年間ある、緊急浚渫推進事業を積極的に、国の予算がついているので県に取っていただき、年1、2回からさらに多く土砂が取れるように、市から県に働きかけていただきたい。

田畑委員長
川上委員

私と永見委員は書いてないので、川上委員。

これも毎回言っているが安全安心パトロールを形にするほうがよい。現在実施されている記録については公開して、地域にこのような問題があると地域に見せていただくことが必要である。

パトロール機会の増加ということで、できれば班編成を増やしていただきたい。そして土木経験者が乗ることが必要と考える。

いずれにせよパトロールの活用が最も必要だと考える。特に道路パトロールを安心安全パトロールとして再構築していただき、横断的な活動を可能とする必要がある。加えてパトロール班には土木経験者、水道工事経験者を加えることにより、ライフラインの安心安全を強化できると考える。横断的な活動として再構築できるのであれば、福祉関係者の同乗機会を設けて、高齢者、独居者の見守り機会も求めていけたらと考える。

柳楽委員

落石防止やカーブミラーについてはパトロールが実施されているが、毎日のことではない。日々状況が変わって見落としがあるように思う。パトロールの強化と、日々のことはなかなか把握しきれないので住民との連携も必要だと思う。自治体によっては現場を写真に撮られた市民がネットで市に情報を送られるといった連携をされているところもある。そういう手法もあるのかと思う。

野藤委員

落石に関しては、よく「落石注意」や「落石危険」という表示しかないが、危険箇所にもレベルがあると思う。例えば3段階などのレベルがあれば、より情報がわかりやすく、通るときに注意するのではないかと。そういった表示の工夫。ピクトグラムなどのわかりやすいサインで。国際基準で統一されているものもあるので、わかりやすい表示をすることが必要かと思う。

カーブミラーについては書いてないが、そもそもカーブミラーでよいのかと思ったりもした。例えば現在だとセンサーを使って、対向車があれば何かのフラッシュがあるとか。例えば高速道路だと「速度注意」などの表示があるが、あのようなものが今ごろは安くあるのではないかとと思う。

田畑委員長

今日予定していた今回のテーマ4つとも、委員から意見を発表していただいた。ここからは意見交換をしたい。最初に(1)について。

また、先ほど2名の委員から、(2)は(1)と一緒にしてはどうかという発言があったが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

では(1)と(2)を1つにして意見交換ということで、どのように絞っていくかをおおむね決めたいが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

では自由に意見を言っていただき、ある程度絞っていきたい。自由討議に入るがよろしいか。

(「はい」という声あり)

意見のある者から願います。

川上委員

町内会の自主防災組織の活用が非常に大事である。周辺自治区においては町内会ごとの常会などをやっている。やってなければ再構築していただきたい。それが中山間地の安心安全を守るためにも大事な部分かと考える。地域住民が顔を合わせる機会を設けることが必要である。

布施副委員長

中山間地域の特別委員会としては、中山間地域の提言の中で、中山間地域はこのような場所だと言われて、そこでは自主防災組織はほとんどできている感じがする。自主防災組織が必要であることは全市にいえることであるから、ここは中山間地域に限らず全市の問題として自主防災組織をつくるべきだということを入れながら、その中でできてない町内に対してどのような考えで取り組んでいくか。特別委員会としてできてないところへどのような働きかけをして、だから大事なのだということと言わなければいけない。ずっと言っているのだが、まちづくり推進委員会ができていないところがあって、単独町内会もままならないところもある。自主防災組織をつくるのが先なのか、まちづくり推進委員会のような連携した町内会が必要なのかをある程度考えながらやらないと、自主防災組織をつくれと言っても小さい町内は難しい。まちなかの自主防災組織はできない状態が多い。なぜかと言われれば役員のなり手がいない。ただ、自主防災組織をつくったほうがよいという思いは皆持っている。誰がやるのかとなったときに同じ人しかやらない。自分の順番が回ってきたら面倒になって委任状だけで済ますなど、そういうところが非常に多い。それがまちづくりになったときに、どのように意識を変えて皆が取り組むか。そのためにはこうしようということを特別委員会からも声を上げて行政に働きかける。できるところから取り組んでもらう。そういう考え方で話を持っていったほうがよいと思う。

避難は個人でできるので、マイタイムラインは必ず必要である。浜田市は来年新しくハザードマップを配られる。防災安全課長は「つくる努力はしてもらいたいと呼びかけはするが、任意なので」と言われたが、つくるべきだと強い言葉で言っていただき、せめて自分でつくる人が増えるように推奨していただきたい。

上野委員

浜田市内の郵便局に30年いて、久しぶりに町なかを歩いてみると随分一人暮らしの方が増えていて、空き家も増えていた。その方は普段どのように地域とつながっているのか全然わからない。

布施副委員長

そこである。不安を感じておられる。火災が起きたら、津波が起きた

ら、誰が助けるかと言え、浜田市がいう要支援者名簿に基づいて町内会の誰かが声かけをする。そういうことはある程度できているところがあるが、今言ったように避難者名簿ができていても自主防災組織、誰が駆けつけて誰が背負って逃げるかは、なかなか見えているようで見えてない。よそから見て大丈夫なのかと心配になるようなところは、必ず不安があると思う。それを回避するのは、目に見える形にするためには、ここには自主防災組織があるのだと対外的にわかれば、よそから見ても安全な地区なのだとわかる。だから自主防災組織をつくれればよいのだが、そこに持っていくまでが難しい。

上野委員

市内は料金も引き落としだったり、回覧も配布なのだろうが、自主防災組織で時々でもよいので訓練でどこか集会所に集まるとかして、そうすればお互いのきずなも少し深まる。そういうことができればよいのだが。

野藤委員

何かあったときに誰が助けに行くかなども、そのときにおられればよいが、複数で決めておかないと難しいのではないか。家が建て込んだような場所は隣近所のつき合いが結構ある感じがする。新しい家が建つと近所づき合いが減ってくるのだろう。そういうところに構築していく。

布施副委員長

町内会で市に補助金が申請できる。1段目と2段目があって、1段目は人数割と面積割。2段目が草刈りなどをやるとある程度お金が出る。あのときに、町内会でも何でもよいので、避難訓練を必須項目にしたら、避難の際に水がもらえたり。必須項目に入れる。そうすれば自主防災組織ができなくても、ある程度訓練はできるかもしれない。

田畑委員長

自主防災組織はきれいな名前であって、実際には、自分の命は自分で守ればよい。家族は家族で。あるいは隣近所までというのが基本であって、枠を大きくすると1つの小組になってくる。それが大きくなると1つの自治会で組織ができ上がってくる。まず自分の命、家族の命、向こう三軒両隣くらいを考えていただければ。皆がそう思えばつながってくるので、お互いの命を皆で守ろうという意識が働けばそれはそれでよい。防災については、補助しろというような発想をしたらいけない。意識づけができないと高齢者といった問題は難しい。

川上委員

今回コミュニティセンター化の方向性が出ている。この機会に本当の意味でのまちづくり組織をつくるのが先だろう。3年をめぐりという書き方がしてある。その間はコーディネーターが入るので一緒に組織を考えたり、集合場所を考えたり、そういうことに力を入れていただきたい。周辺自治区はかなりできているので再度洗い直すだけで済むが、中心部はできてないところがいっぱいあるので力を入れていただきたい。

永見委員

浜田市は6月に総合防災訓練が行われるが、積極的に参加するのは周辺部で、旧市内では参加が少ない。誰が避難を補助するのか、体制をつくるのはそういうところを通じていくべきではないかと思うので、意識の持ち方が必要ではないか。せつかくの防災訓練を活用して取り組めば

柳楽委員	<p>大いに役立つのではないかと聞いたような気がする。市の広報は行政連絡員が全戸に配っていると思う。行政連絡員の管轄は決まっているのだと思うが、それがイコール町内会ではないのか。</p>
布施副委員長	<p>名前を出して悪いが高田町は、町内会長はいないが行政連絡員が指名されて広報などは配られている。町内会長がいなくても自治会活動はしていないと聞いた。</p>
柳楽委員 古森局長	<p>行政連絡員は配って回られるのか。 それぞれ町内はあっても町内を一緒にした行政連絡員というところは多々ある。回覧などはそれぞれ班長がいて、行政連絡員から班長にわたって、そこから回る。</p>
柳楽委員 布施副委員長	<p>直接回られるのはその班長なのか。 いろいろある。黒川は行政連絡員がいて、その人が60部持ってくる。1組、2組、3組で15、25、10とかで分けて、組長が自分の組に配っていく。</p>
柳楽委員 古森局長 柳楽委員	<p>その地域のことを、その中ではよりわかっておられるのは班長なのか。 持ち番なので1年交代だから。 この家にはだいたいどのような方がおられて、というところまではその方もわからないのか。</p>
布施副委員長 柳楽委員	<p>わからない。行政連絡員も構成はわかっても。 例えば避難時にあそこのお宅の人は1人では大変かもしれない、といったことも把握しきれないか。</p>
野藤委員 布施副委員長 柳楽委員	<p>民生委員ならだいたい把握している。 構成はわかっても災害時にどうするかはほとんど話さない。 アクションを起こすことが必要なのかなと思う。そのアクションを誰が起こすのか。</p>
布施副委員長 柳楽委員 野藤委員	<p>必須項目にすればよい。 1つ思ったのは、行政の福祉部局とも連携をすることが必要なのかと。でも各町内には福祉委員もいる。例えば敬老会の案内を配ればその方が様子がいろいろわかるので、町内の連携を密にしておけば大体わかる。</p>
布施副委員長 野藤委員 布施副委員長 野藤委員	<p>その人がわかっても皆がわからなければ意味がない。 皆にわからせるとなると今度は個人情報の問題が。 避難するのに個人情報を気にしていたら始まらない。 私はこの2、3町内だがわかる。情報が入る。ただ、アパートには回覧は回さない。町なかでもアパートが多いところはわかりづらい。アパートから出てくる人もいれば出てこない人もいる。</p>
布施副委員長	<p>中山間で考えるとそこができてからよい。ただこの問題は全市にかかわることだから、できてない町内をいかに意識づけさせるか。組織をつくれと言ったら抵抗があるから、防災意識を高めるために浜田市の</p>

必須項目として、市から町内へ強く入れていただく。そうすれば避難訓練にも参加しようかという意識ができる。コミュニティセンター化する際にどのようにもっていくのかわからないが、防災意識を高めようにも、誰がやるのかという話にすぐなる。自分らは人に助けてもらわなくてよいという人もいる。

川上委員

アクションの機会としてコミュニティセンター化の議論を使っただけことを言っただけだ。同時に災害時の相互扶助の組織化を前に出してほしいということも必要だと思う。中山間地においては構成されつつあるが確実にない部分があるので、そこも確実にしてもらおうと同時に中央においてもぜひやっていただきたいというのも必要である。

柳楽委員

組織としてそういうことをするのが難しい状況がある中、結局自分に何かあった際には誰に連絡してもらおうとか、そういうものを書くようにして冷蔵庫に貼っておいたら、例えば救急が来たときに役立つ、みたいなものがある。自分の場合は誰に助けてもらうのかを明確しておくことが大事という観点からすると、マイタイムラインなどが関係してくる。自分が大変なときに誰に助けてもらえるか考えたとき、災害時は隣近所が一番大事だと思うので、そこと連携できる関係性をつくっておかないといけない。タイムラインをつくる過程で隣近所に、自分がもし大変なときは連絡先として名前を上げさせてもらってよいかという確認をしていただくことでも少し取り組みができるのかと思う。

川上委員

皆が冷蔵庫に貼っておくことにしたらすぐわかる。

柳楽委員

提案文書の中にも入れたのだが、三隅の取り組みがすごくよいものだと思う。名簿としてつくって、全員分をまとめたものを拠点の公民館などに誰が見てもわかる状態にしておけば、いつ誰がどういった災害で動けないかわからないので。これは視察に行かせてもらったところで、拠点にそういうものを置くことをされていたのは必要なことだと思ったので。

田畑委員長

拠点に置く必要はないと思う。自分のところの防災長が持っていればそれでよい。それと事務長が。あとは各集落の班長。集落長には携帯番号を公表してもらおうので、26年の災害のときも携帯電話ですべて安否確認した。番号非公開の人は自助努力でどこか避難するだろうということで放置。自主防災長が持ってさえいればよい。

柳楽委員

今、なぜ拠点に置いておいたほうがよいと言ったかという、自主防災の長が大変な場合があるかもしれない。そう考えると拠点となる場所に個人情報が入り込んでいるので、普段はそれほど持ち出しては見ないが、いざというときにはそれが確認できる形は大事ではないかと思ったので。

田畑委員長

防災長は何もしない。小組の班長が地元エリアの20人ないし30人の安否確認をすべてやるのだから。それが12班くらいあるか、結果的に

防災長に報告する際は、どこが何人安否確認できた。よって支所へ電話して、支所から消防が行くといったことになる。消防団が災害のときに現場に出て、人をどうのこうの言うのはあり得ない。消防団は絶えず支所からの安否確認待ちで、皆と同じ行動をとることはない。うちはその方針でやっているからそれがよいが。

永見委員 名簿については地区ごとにあるのではないかと。

田畑委員長 名簿に書いてもらうようになっている。

永見委員 それを災害発生時にはこういう形の体制でと、名簿はそれぞれ持っておられるのでは。

田畑委員長 それを2年に1回くらい書き換えていかないと。それも全部自分たちでやらないと。

柳楽委員 それは要支援者だけではないのか。

田畑委員長 要支援者も入れたら余計に更新がかかる。要支援者という言葉は使わないが、自分で歩けるか、車椅子や担架などの機材が必要な人は完全に要支援者である。その場合は誰が連れてくるか、防災会の班長と皆とで決めないと。そういう仕組みをつくっておけばいろいろなことが皆対応できる。

布施副委員長 それができたとのが今のまちづくり推進委員会の中の防災組織の中で、各町内が持っているところが、浜田市内は三階、周布、長沢の、まちづくり推進委員会ができているところはそれがどんどんできているが、ほかのところは名簿さえできてない。

田畑委員長 地域の人が集まって地域の実態を知って、地域の人が決めることなので。自主防災組織ができればまちづくり委員会が7割はできたようなものである。ほとんどのまちづくり委員会が組織として防犯防災部会、環境育成、生涯学習など4つのことを合成しているから。ほとんど自主防災組織がきちんとできた集合体のまちづくり委員会なら、ほとんど網羅できる。自主防災ができればまちづくり委員会はできたようなもの。

布施副委員長 市内の一番の問題点は、アパートの住人にそういう人がいても把握できない。これは今のまちづくり推進会の問題。多い。町内会費は半分以下もらえない。回覧板は回さない。市報は出す、ゴミは利用する。しかし町内行事は参加しない。こういう約束で入居している人が浜田市内にはたくさんいる。その人らに自主防災組織をつくったときに、対象者であっても誰が。普段協力してもらってないのに、このときだけ名簿出してやってくれと。すごく難しい問題がある。まちづくり推進委員会ができたところでもアパートの住人は参加していない部分が結構あって、それをどうするかが問題だといわれている。

柳楽委員 例えばアパートやマンションを運営されている方は、災害時に何か行わないといけない決まりがあるのか。自分の建物の居住者に対して。

布施副委員長 特にない。防災防犯には気をつけてくれと伝えるが、取り決めについては宅建業者ではないから。個人でやっている経営者が多いので、それ

はない。宅建業者が入って管理者がいるところは決まりごとはあるかもしれないが、浜田は個人的なアパート集合住宅が結構あるので、大家がそこまで管理しているところはあまりない。

田畑委員長
 布施副委員長
 田畑委員長

絞り込みをいかがするか。
 自主防災組織をつくるのが大事だということは皆。
 ホームページを見ると、今は浜田に61団体の自主防災組織ができて
 いる。できているのはよいが、いかに毎年訓練していろいろなことを継
 続してやっておられるかが問題である。

野藤委員

平成30年以降の情報が載っていないが、いくらか増えているだろう。
 まちづくり委員会と地域自主防災会とは、自主防災会のほうが小さいの
 か。

田畑委員長
 布施副委員長

小さい。
 三階ネットワークがあって、相生2-2は自主防災組織である。まちづ
 くり推進委員会があっても自主防災組織は全体にある。ただ相生1-1
 町内はない。

野藤委員

自主防災組織には何パターンかあるが、大体小さい単位が多いのだな
 と。そのほうがきめ細やかか。地域の実情に沿った組織づくりを進める
 というしかないのかと。大きければよいというものではないという話を
 聞いたので。

田畑委員長

今日は(1)と(2)を3つないし4つにまとめようと思ったのだが、なかな
 か時間がたつがまとまらない。最終的には6月定例会議で報告したい。
 いかがでしょうか。

柳楽委員

今日いろいろ皆で出した意見を考えた上で、項目ごとにこれを記載し
 たらどうかということで、また文書にして提出をしたらどうか。

田畑委員長

そうではなく、今委員から出してもらった(1)と(2)の問題点、課題や対
 策についてある程度絞り込んで、それを今度自由討議でもよいしいろ
 いろな形で、深く突っ込んでいったらよいと。それをまとめたものを1
 と2の提言に結びつけていけたらよいと思っている。

柳楽委員

今日出たもので必要なことをそれぞれが、これが重要ではないか、取
 り上げたほうがよいのではないかというものを、文書としてまた出して、
 それを次回にしたらどうか。

布施副委員長

この自由討議に、1から4までテーマを出した。あのときはここまで
 出して、皆が言った意見を今度はある程度、これは必要だと。文書にす
 るかどうか。自主防災組織、今言ったように最終的には各実情に合った
 自主防災組織を今も推進しているけど、特別委員会としてこうだからさ
 らに行政として取り組みを強化されたい、という提言書に持っていくの
 か、それとも自主防災組織をつくるためにはコミュニティセンター部分
 がまちづくりにすごく影響している。それができた時点でできてない
 ところに対して、こういうことで働きかけてこういう、細則まで入れて提
 言するのか。そこをやっていく。それを文書にするのはもう少し先だと

思う。まだ話し合いが、今は自主防災組織でやったけど、自主防災組織をつくれればそれが解決するといえればそれまで。自主防災組織ができてないところに対してどう働きかけるのか。私らが働きかけるのではなく市長に提言するのだから、市長がこれまでやってきた防災安全課に、もっとこのように考えろ、もっと力を入れてこのようにやれという提言があるからやれ、くらいのものに持っていくためには、今日だけではまだ文書では難しいと思う。まだ時間をかけたほうがよい。

柳楽委員
古森局長
柳楽委員

私の説明が伝わらないようで。局長は私の言うことがわかったか。何となく。

掘り下げるために、この項目について特に掘り下げようというものを
出して。

野藤委員
柳楽委員
古森局長

圧縮していくのか。

そういうつもりだったのだが。

それを、次回の場でこれとこれにセレクトしようという話し合いをした上でそこへいくか、次回のときにそれぞれ個人の判断でセレクトしてもらったものを協議するか。そのどちらかだと思う。

布施副委員長
古森局長
布施副委員長
川上委員

1と2はセレクトしておいたほうがよいのでは。

全員の場合で絞り込むか、個人の判断で絞り込んだ上で話をするか。

どちらにしようか。

各々の考え方で一度絞り込んでおいて、もう一度それを集めて討議したほうが深まるのではないかという気がする。

柳楽委員
布施副委員長
永見委員

今日決めるのではなくて。

ほかに意見は。

私はこの場で全員である程度の項目を絞り込んでおいて、それからそれに対して意見を出す形がよい。

布施副委員長
古森局長

2案出た。

今日は1と2しかやっていないが、3と4まで終わった後で全部一緒にやるのか、今の時点で1と2だけで次回やるのかによっても、進め方が若干違うかと思う。

布施副委員長

テーマ4は各委員会でも問題になっている部分が結構あると思う。その中でいろいろ、各委員でおられる中で知恵もあろうし、執行部からの報告事項に入っているものもあると思う。今日は集中的に1と2をやったが、ここをある程度やれば3と4については、考え方よりはものを増やせとか、提示しろというものが結構あって、提言するには絞られたものが出るしかない。この1と2が一番重要だと思っている。

3と4をやった上で全体でやるのか、個人でやるのかは、考え方が変わってくると思うが、どのようにしたらよいか。

上野委員
布施副委員長

1,2だけのほうがやりやすい気がする。

では1と2を集中的にやる。その中で、今日時点で3つくらいにテーマを絞って出す。

- 野藤委員 私も、今日皆の意見をお聞きしたので、皆の意見を1つにしたものを出したほうがよいのかなと。ここでといってもなかなか難しいのでは。
- 布施副委員長 出ているのは自主防災組織のあり方、マイタイムラインの必要性が出た。あと共通しているのは安否確認では、これは自主防災組織の考え方でもあったのだが。絞られてくると思う。
- 野藤委員 細かい手法について今日出たので、それをある程度、また次に皆で持ち寄って絞っていくほうがよいのかと思った。ここでは今やりにくい。
- 布施副委員長 次回、今日出た分を再度討議する意見と、今日時点で出た意見を3、4つくらいに絞って、次回に各個人として意見を出す、そういう意見に分かれたのだが、どちらにするか。
- 田畑委員長 今日、各委員から課題や提言の話をしていただき、そのうち事務局で話をした。すぐ整理するのめどうかという気が私はするので、今日1と2について自由討議した部分について、次回から何点になるかはわからないが整理していけたらよいと思う。先ほど副委員長が少し言われたが、3と4については比較的どうこういう課題でもないと感じているので、次回で1と2を整理できればよいのではと思っている。それでよいか。
- 布施副委員長 次回に1と2をまとめたものを、各意見を出すということか。細則まで入れて。
- 田畑委員長 そこまでしなくてよいと思うが、皆はいかがか。
- 古森局長 それぞれが、それぞれの考えで、例えば3点なら3点ピックアップして出してもらい、それをもとに協議するのか。それとも次回は今日の内容を受けてそれぞれの意見交換からやるのか。
- 田畑委員長 今日の自由討議を受けて次回まとめないと、今日の自由討議が無駄になる気がするので、そのほうがよいと思うがどうか。よいか。
- 柳楽委員 今日の話をもとに、この部分についてもっと具体的にあれするものを出すという考えか。
- 田畑委員長 出さなくてもよいから、考えを持ってきてくれ。
- 布施副委員長 細則を入れると、ここだけで決めても、このためにはどういう提言をするのか。ここを決めていかないといけない。
- 田畑委員長 細則まで入れるのか。
- 布施副委員長 自主防災組織をつくるためにはこういう考え方でやる、そのためにはこうだということを、提言を入れて各委員にももらわないと、また次話し合うのか。その辺も入れたものを出すのではないか。
- 古森局長 そこまで入れてあれば完璧だが。とりあえず項目を絞るための見出し的なものかと。
- 田畑委員長 項目を決めてそれから掘り下げていくならよい気がするのだが、いかがか。
- 野藤委員 掘り下げるためにそれぞれが出して、絞っていく作業を多分、柳楽委員は言われたのでは。

柳楽委員

なので、ある程度今日、1と2に関していろいろ意見が出たから、その中でも多かったものについて自主防災組織の取り組み強化だったり、マイタイムラインだったりということで、皆の意見の中でこのようにしたほうがよいのではないかというものを書いて、一応提出して、前もって皆、次の委員会までに目を通して参加する形がよいのでは。

布施副委員長
田畑委員長

私もそう思った。
いかがか。

(「はい」という声あり)

では絞り込んで事務局にまた出して、自分自身の考えをよくまとめて、次の委員会に出てこいということか。

柳楽委員
田畑委員長
柳楽委員
古森局長

(1)と(2)は一緒にするというで決まったのか。

一緒にする。

この表題は正副委員長が決めていただけなのか。

それは中身がある程度詰まって、中身を見ながら題目を決めてもよい気がする。

田畑委員長
柳楽委員

タイトルは後づけのようなものである。

了解した。

2. その他

田畑委員長

では次回の開催日を決めたい。皆、いつがよいか。

《 以下、日程調整 》

12月22日の10時から、先ほど言ったように1,2を整理して事務局に送っていただきたい。

野藤委員
田畑委員長

提出締めは15、16日あたりでどうか。

(1)と(2)をまとめて課題を整理して事務局へ送ってもらおう。ついでなので(3)と(4)も合わせて。(3)と(4)は自由討議で皆の意見を聞いてないが、いかがでしょうか。(3)、(4)も、私はこの部分が必要だというものがあれば。では(1)と(2)をまとめる、(3)、(4)を整理して、16日までに事務局へ報告を提出する。それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

古森局長
田畑委員長
柳楽委員

提言項目でよいか。

はい。委員から何かあるか。

事務局に。今まで会議録をタブレットに入れてもらっているが、あの形で今日の分も上がるか。

古森局長
柳楽委員
田畑委員長

はい。

了解した。

ほかにあるか。

(「なし」という声あり)

以上で本日の委員会を終了する。

(閉 議 11 時 54 分)

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により委員会記録を作成する。

中山間地域振興特別委員会 委員長 田 畑 敬 二 ㊞